



かがやき自立活動通信

平成26年10月20日
草加かがやき特別支援学校 自立活動

行事の多い季節になりました。できるだけ子どもたちを混乱させることなく生活できるように、環境設定に努めましょう。



特集 衝動性が高い子どもへの対応

衝動性が高い子どもの支援について例をあげて考えてみましょう

こんな状態です

- ほんの数秒目を離したらいなくなった
- 車の前に飛び出した
- 他人の持ち物に触ってしまう
- 異性の体に触ってしまう
- 突然周囲の人を叩いたり噛んだりしてしまう
- 思ったことを口に出してしまう

本人が困っていること

- 我慢したり待つことは苦手だなあ
- いけないってわかっているけれど、体が勝手に動いてしまうんだ
- 「いつも言っているよね？」ってまた怒られちゃった

周囲の反応

- 親は何をしているんだ？ しつけがなっていないなあ
- 失礼な子だなあ
- あの子が来ると叩かれるよ

考えられる理由

- 刺激に対して反射的に反応してしまう 「目に体が引っ張られる」状態
- 興奮状態だとよけい刺激に反応しやすくなってしまう
- そこにいる意味がわからない
- 活動がつまらない
- やりたいのに待たされている

本人が学ぶこと

- 衝動性をコントロールする力を付ける
「我慢する力を付ける」ことではありません。「コントロールする力を付ける」のです。動かない・待つ・手の動きを止める・静かにする・合図を待ってから動く・手をつないで歩くといった学習を、いろいろな場面で練習していきます。

支援者がすべきこと

- 子どもが動き出してしまったら止めるのはとても大変です。動き出しそうな瞬間にまるで出鼻をくじくかのように止めるのが効果的です。
- 刺激になりそうなものが見えないような位置に座らせたり、そういう場には子どもを近づけないようにします。
- 「ダメッ！」と行動を止めるだけではなく、その都度「こうしようね」と適切なやり方を伝えます。
- 嬉しい・イライラしているなど興奮状態になってきたときには、体に触れて、力を抜くように促します。
- 「座ってられる時間」「手を出さないで待っている時間」を短い時間から練習します。「3数える間は待っていて」からスタートし、タイマーを使ったり、時計の文字盤を見せて時間を長くしていきます。時間という枠から「ご飯の間」「本を読んでいる間」と活動で待てるように変えていきます。
- 順番の練習をします。最初は待てないので、短い時間で交代できるものにします。
- 合図で動く練習をします。「まだよ、まだよ…はいどーぞ!」「よーい、スタート!」などで動けるようにします。
- 活動に見通しを持たせます。苦手な活動をしているときは「これが終わったら、大好きな〇〇ができる」と期待を持たせるようにします。
- 注意が反れそうなときに「今、何をしているの?」と声をかけ、自分自身で、すべきことを確認できるようにします。
- 頑張っているようになってきたらたくさんほめます。すでにできるようになっていることでも、「前に比べると、本当にお兄さんになったね」と時々改めてほめると、継続してできたり、他のことにも頑張れるようになります。



自立ノート

『現場実践から学ぶ知的障害児・者支援【困難事例編】』公益財団法人 日本知的障害者福祉協会 を読みました。

タイトルにある通り本当に困難な事例がたくさんありました。

例えば、「多飲水・水中毒の男性で、1日に体重が8.4kgも増えてしまい、体内のナトリウムのバランスが崩れると発作を起こすため水を制限すると破壊行動が始まる」「コーヒーに強いこだわりがあり、要求がかなわないと他害行動に出る。肥満であるが散歩に誘うと寝転がって動かない」「家庭内の暴力が激しく、母親は傷害事件のニュースを聞いた時に『次はうちだ』と思った」などです。

すさまじいほど難しい問題に驚かされながら、「自分だったらどうするだろう?」と考え読みました。

事例を読みながら最初に感じたことは、正直言って「どうして保護者は我が子に甘いんだらう?」ということでした。しかし、読み進むうちに、私は問題を解決することが最優先になっていることに気がきました。困難な問題は、知的障害児・者たちが何かを伝えたくて起こしてしまったのではないかと、言葉では伝えられない思いがあるためにそういう行動を学習してきたことはなかったか? 保護者は直感的にそのことを察していて、子どもに寄り添った支援を求めているのかもしれないと気がきました。

問題行動を単なる問題行動と理解しているうちは何も関係は変わらない。

問題行動があるときは、何らかの気持ち動いている時である。

私たちががかかわっている子どもたちも、わがママを言いたくなったり、甘えたかったり、寂しい思いをすることが当然あるはず。「自分の都合」を優先していたことに反省させられる1冊でした。